

【別紙1】

第24回 日本カリキュラム学会（上越教育大学）
公開シンポジウム

（テーマ）よい教師をつくるカリキュラムとは
— 大学と教育現場とをつなぐ視点から —

テーマ設定の趣旨

平成24年8月28日、中央教育審議会は「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上策について」を答申し、教員養成を修士レベル化するとともに「学び続ける教員像」を提示した。そして、教員を高度専門職業人と位置づけ「教科や教職に関する高度専門的知識や、新たな学びを展開できる実践的指導力を育成するためには、教科や教職についての基礎・基本を踏まえた理論と実践の往還による教員養成の高度化が必要」であるとした。

しかし、ここでいう「実践的指導力」とは、どのような能力をいうのであろうか。また、それは、どのようなカリキュラムによって育成されるのであろうか。我が国の教員養成制度は、教育職員免許法によって学ぶべき内容の詳細が規定されていることもあり、実践的指導力に関する論議は、これまであまりなされてこなかったのではないかと。

そこで、本シンポジウムでは、実践的指導力をいかに育成するかを焦点に、教育政策の動向、大学4年間での教員養成の成果、また、実践的指導力の育成を標榜して導入された教職大学院の設立後5年間の取組をもとに、カリキュラムの観点から事例を挙げながら具体的に検討することとしたい。

副題には、「大学と教育現場をつなぐ視点」を入れた。これには、二つの意味をもたせている。一つは、教員養成教育における大学と教育委員会、大学と学校との連携・協力である。もう一つは、大学での教員養成教育と、教育現場での研修の接続である。

このシンポジウムが契機となり実践的指導力に関する論議が高まることを期待したい。

- 提案者 ○学部教育の視点から
高岡 信也(独立行政法人 教員研修センター)
○教育委員会との連携の視点から
油布 佐和子(早稲田大学)
○学校との連携の視点から
水落 芳明(上越教育大学)
○教育行政の視点から
池田 貴城(文部科学省)

- 司会 水原 克敏(早稲田大学)
瀬戸 健(上越教育大学)